

# イオン産直コーナーで好評

## 安全性配慮し、売上トップ級 東北地区

イオンの東北エリアの店舗にある産直イオンショップの中でトップレベルの売上げを誇るのが、イオン名取店（宮城県名取市）に出店する女性産直グループ「サンサンメイト」（松浦優子会長、会員26人）だ。「新鮮で安全安心なものを食べて欲しい」との思いから、会員全員がエコファーマー認定を取得。さらにはインターネット上で使用可能な農薬をチャックし、栽培履歴の記録・公開ができるシステム「農場物語」の活用や、放射性物質の自主検査も行う。また、一人ひとりの意識・知識を高めるべく、各種の勉強会なども行い、輝く生産者をめざす。

宮城県のほぼ中央に位置する名取市。仙台空港アクセス鉄道・杜せきのした駅に直結するイオンモール名取は、4月にリニューアルオープンした約170の専門店を擁する大規模ショッピングモールだ。その核店舗・イオン名取店の青果売場に、サンサンメイトのコーナーがある。数々の木箱にトマト、キュウリ、ナス、エタマメなど同市および近郊で栽培された野菜が並び、取扱いは野菜だけでも年間約100種類。朝8時までに納品・陳列するがすぐに売れてしまうことも多く、1日3回程納品する（合計16人）が統合して01年に発足。04年には全員がエコファーマーの認定を受けるとともに環境に配慮した生産を行ってきた。また、09年からはイーサポートリンク（東京都豊島区）が開発する「農場物語」（年間利用料1人8000円・公開システム利用料10000円含む、新規ID利用料別途）を全会員が導入し、農薬の誤使用を防ぐとともに、栽培計画の記録、栽培履歴の記録・公開も。さらに、放射性物質の検査も、月初めに農業改良普及センターに依頼し実施している。

「サンサンメイトの立ち上げ後、無登録農薬問題やBSE、放射能など、食の安全を揺るがす大きな出来事が次々と起こりました。しかし、放射性物質の検査と、農場物語の活用で自信を持ってお客様に販売することができました」と松浦会長は話す。

一方「サンサンメイトの活動は忙しい」とも。昨年度は、全体会議や各種会議、月1回の定例会、勉強会、数回の対面販売、そのほかにもイベントの参加など。勉強会は先進産地視察も含め10回以上、「除塩方法」「PPPとは」「放射能について」「食品加工」などがテーマになった。また、全会員がレンビ係、調理係、価格査定員など何らかの係を受け持っている。こうして一人ひとりが責任を持って運営に携わるとともに、知識向上やレベルアップを図っている。

「サンサンメイト立ち上げ・イオンへの出店後、09年にはジャスコ幸町店（東日本大震災後閉店）にも出店し、10年度の売上げは合わせて6千万円（加工品など含む）となった。「1億円を

めざす」としていた矢先に大震災が起こった。全会員が無事だったものの、とくに大規模に展開していた会員の圃場などが大きな被害を受けた。それでも、12年度は青果・花きのみで4600万円（イオンへの手数料をのぞく）を売上げ、店側にとっても産直コーナーは大きなウリとなっている。店には年間栽培力レンジャー、四半期販売予定力レンジャー、1か月販売予定力レンジャー、1週販売力レンジャー、販売日納品書を提出し、地域の担当バイヤーが仕入れの参考にしてもらっている。なお、価格は市場価格と店の青果コーナーの販売価格を考慮して決めている。また、農場物語の新機能として、過去2年間の個人の作付けや出荷実績を1日、1か月、3か月、年間の単位で閲覧できるようにした。これをもとに、各自の作付け計画やグループ全体の戦略的な販売計画の作成も可能となる。松浦会長は「会員の労力も考慮しつつ、偏りなく消費者のニーズに合った野菜を提供できた」としている。



会員の写真を掲載したサンサンメイトのコーナー

「サンサンメイトの立ち上げ後、無登録農薬問題やBSE、放射能など、食の安全を揺るがす大きな出来事が次々と起こりました。しかし、放射性物質の検査と、農場物語の活用で自信を持ってお客様に販売することができました」と松浦会長は話す。

「サンサンメイト立ち上げ・イオンへの出店後、09年にはジャスコ幸町店（東日本大震災後閉店）にも出店し、10年度の売上げは合わせて6千万円（加工品など含む）となった。「1億円を